



JEG ニュースレター 173号

www.jegschweiz.com

2019年12月21日発行

小さな証

日々痛みに耐える辛い体験を通して得られた神様への信頼、希望、願いが綴られた感動の証。 P2

講壇交換

フランクフルト日本語教会との講壇交換で、久しぶりに矢吹博牧師夫妻がスイスを訪れました。 p3

joy joy kids

今年も近隣の多くの母子をお招きしてjoy joy kidsが開催され、福音を聴いて頂きました。 P3

ミッション特集

ミッションは宣教師のみならずキリスト者の使命です。では、わたしのミッションとは。 P4から

小さな祈り

天のおとうさま、
私たちをあわれみ、すべての咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ込んでくださった、主イエスの十字架への感謝を今日も覚えることができますように。



"ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。" マタイの福音書 28章19~20節

わたしのミッション・あなたのミッション

恵みと信仰によって代価なしに救われたクリスチャンは、すべての人が働き人であり、生き様こそ証と伝道、生きることそのものが宣教であるべきと感じます。小さく至らないものではあっても、遣わされている場所で、地の塩、世の光になりたいと祈りつつ歩みたいものです。

創作折り紙作家・池田喜美子姉の作品

ちいさな証

神様の思いとひとつになって

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会会員



スイスで生活するようになり数々の病が与えられてから26年目を迎えることができました。こんなに長い間病気と付き合い生かしていただけていること自体、神様の御手による働き以外の何物でもないことを感じずにはられません。

弱く貧しい信仰しか持ち合わせていない私をここまで忍耐し守り続けてくださったことを思うと神様の前に感謝しひれ伏すことしかできません。

御言葉の学びやたくさんの訓練を通して神様の方法を知って、神様の計画がどれほどすごいものであるのかを教えらるる度に、人には測り知ることのできない想像をはるかに超えられたお方がこんな私をも造ってくださり、愛してくださっているということが、その上で自分の御子をさえ惜しむことなく身代わりとして、十字架に付け、罪の代価を無償で支払ってくださり人の努力ではなく、唯信じるという恵みによって救いの道を用意して、死と罪という滅びの道から解放し、永遠の生命を与えてくださり、もう一度、聖であり義であるお方に近づくことができるようにしてくださいました。

一人でも多くの人を救うために今も生きて働いておられる大いなる神様が共にいて導き続けてくださっていることを思うと喜びで満たされます。だからこそ義務ではなく神様のために神様が喜んでくださることをしたいという思いが湧き上がってくるのです。

神の国である天に向かうまでの信仰生活には多くの試練があります。たとえこれからどのような試練が襲ってきたとしても必ず共にいてくださるし、助け出してくださいという土台の上に立って固く信じるならば何が起ころうと揺らぐことなく歩むことができます。

試練は私達をよりイエス様に似た者に変え、御国にふさわしい者として成長させるためのものであり、また、物や自分ではなく唯一絶対のお方である神様に全幅の信頼をおいてすべてを明け渡し委ねることを学び、主に従うことが最高最善の道であり、天の御国に導き入れられるその時を楽しみに待つことができるようになるために必要なものです。

試練を通して学べることはたくさんあります。自分が経験してみても初めて見えてくる世界があります。

人は苦しみは好きではないですし、できることなら避けて通りたいと思ってしまうかもしれませんがそれを主によって乗り越えさせていただいた時、詩篇119篇71節にもあるように、『苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれでああなたのおきてを学びました。』と言うことができるようになります。

私はスイスでの生活において一人であることが多く、辛い時苦しい時なんでも誰か助けてくれないかな～と人に頼りたくなることが何度もありました。けれどももしその時、自分の思う形で助けが与えられていたら本当の意味で主に頼るといことがどういことであるのか理解することが出来なかったと思います。

日々激痛の苦しみの中で自分のことすら満足にできなくなりその上、人を頼ることもできないそういう状況を与えられたからこそ主の方向をしっかりと向いて心の底から神様に『助けてください。』と叫び求めることができるようになりました。



人は知らず知らず背負う必要のない荷物を持ち、辛く苦しい思いをすることがあります。でもそれに気付かせてもらえるのも試練ですし、その荷物を私のもとに持って来なさいと言ってくださるイエス様のところへ行きすべてを降ろした時、深い愛に包まれて平安が与えられ、安らぐことが出来ます。

信仰生活において大切なことは『主に信頼し、主の前に静まり、主の時を待ち望むこと』。人の目に遅く思えることがあっても神様は決して遅れるということのないお方です。

どのような絶望であっても助けることのおできになるお方、決して見捨てることなく疲れた心をいやし共に支え続けてくださるお方、天地を創り良い物で満たしてくださる全知全能であるお方、このお方に望みを置いてこれから主の愛と恵みの中、主にすべての栄光を帰することができるように主をほめたたえつつ神様の思いとひとつになって生かされていくことができるように、そして日々心を新たにしてお仕えすることができるよう祈り求めていきたいと思ひます。



1. 講壇交換+α

11月10日(日)は、講壇交換でフランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博牧師が“あなたを救う神”をテーマにイザヤ47章からみことばを解き明かされました。教会での説教のご奉仕に先立って、9日(土)はメアスブルグの原宅において13時半から家庭集会でのご奉仕をされ、多くの出席者に恵まれて集会が大いに祝福されました。

大の鉄道ファンである矢吹先生ご夫妻は翌日スイス東南部のエンガディン地方からアッペンツェラーランドへかけて鉄道の旅を堪能されました。月曜日は、すでに冬に入ったアッペンツェルの山岳地帯で白銀の世界を楽しまれ、2時過ぎに、再び鉄道でフランクフルトに戻られました。



11月10日の矢吹博牧師のメッセージ“あなたを救う神”の録画はこちらで <https://www.youtube.com/watch?v=ATszlZplthA> ご覧いただけます。

同日、マイヤー牧師は、フランクフルト日本語キリスト教会で説教の御奉仕をされました。

2. 新シリーズ

10月13日からマイヤー・マルチン牧師による新シリーズ”ディサイプルシップ・キリストの弟子として生きるために..”が始まりました。12月8日の”主を待つしもべ” Der auf den Herrn wartende Knechtでシリーズ4回目となりました。これらの録音ならびに録画はスイスJEGのHPでご視聴いただけます。 <https://www.jegschweiz.com/%E7%A4%BC%E6%8B%9D%E3%83%A1%E3%83%83%E3%82%BB%E3%83%BC%E3%82%B8-audio-video/>

3. ティーン&ユース秋の山登り



10月6日に予定していましたティーン&ユースのアッペンツェラーランド山登りは天候不順のため延期となりましたが、集まったティーン&ユースの皆さんと晴れ間にAppenzellを散策いたしました。この度のティーン&ユースの山登りを計画し案内して頂く予定だった松林兄姉が、計画変更を余儀なくされた参加者総勢16名をご自宅へ昼食に招いてくださいました!昼食の後には短いAndachtの時が与えられ、藤原誠兄、トムセンチャーリー兄、トムセンヨハナ姉のリードで賛美とみ言葉

の朗読、証、祈りと続き、松林家のリビングルームは教会の礼拝堂となりました。その後も続く交わり。ゲームや、階下の工房で押し花カード作りや工芸などなど、恵みに溢れる1日となりました。このようなプログラムを立てて下さった神様と皆様のお祈りに感謝をいたします。

今村葉子記



ユース・アッペンツェラーランドの1日のスナップ

4. オーニングー宣教師ご夫妻が本帰国

11月6日、日本での長年の宣教師としての働きを終えて、オーニングー・マックス&玲子師が本帰国されました。日本と日本人を愛して、(SAM:スイス同盟宣教師団およびOMFの宣教師として)40年近く関東圏で献身的にお働きになりました。長い間の尊いお働きに心から感謝するとともに、スイスでの生活が祝福に満ちたものとなりますようお祈りします。新しい住まいは、ご家族とも近いアールガウ州シュナイシングェンに決まり、スイスでの新しい生活を始められました。



5. joy joy Kids

11月27日(水)に今年もマラナタハウスでジョイジョイキッズを盛況のうちに行うことができました。主の恵みと皆様お祈りに感謝しています。大人17名、子供17名の参加がありました。アドベントカ



レンダーを作り、クッキーにデコレーションをして楽しんで後、ウェンディさんより手品を交えた楽しいクリスマスのお話をみんなで聞きました。ジェックより多くの奉仕者も与えられて感謝です。ありがたいことに、とても楽しかったとのフィードバックをたくさんいただきました。参加された方が一人でもイエス様と繋がって下さればいいなと祈っています。

トムセン千香子記

6. 欧州教職者研修会

11月18日(月)から21日(木)まで、南ドイツの保養地、バート・リーベンツェルで欧州教職者研修会が開催され、欧州各地で孤軍奮闘される牧師ならびに伴侶のみなさん23名が集まり、寝食をともにしつつ、課題を分かち合い、祈り励ましあい、研鑽を積み重ねました。スイスJEGからもマイヤー牧師が参加されました。



7. 聴くドラマ聖書

新改訳2017年版をベースに、豪華な俳優/声優陣150名が膨大な時間をかけて参加し制作されたこの画期的なアプリは、スマホとタブレット用に無料でダウンロードしてご利用いただけます。聖書通読の強力な助け人となること間違いありません。 <https://graceandmercy.or.jp/app/> ぜひ、ご活用ください。

8. 世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニングー宣教師、クンツ・プスキラ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、“宣教の声”が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

わたしのミッション、あなたのミッション

フィンランドから日本へ

山口修平

アラヤルビ福音ルーテル教会



こんにちは。山口修平と申します。2007年からフィンランドに移り住み、今は妻のヨハンナと子供3人との生活です。2017年

からはフィンランドにある福音ルーテル教会で宣教秘書兼ユースワーカーとして働いています。

具体的な仕事としては、宣教をサポートする手作りサークルや宣教サークルに参加して聖書の話をしたり一緒に祈ったり、母の日の食事会やメーデーの日にドーナツを作って売る事に加えて、主に15歳を対象にした堅信礼教育、また夏の喫茶店経営にも携わっています。他に教会が援助している

宣教師さんがフィンランドに一時帰国した時に招待して歓迎会等を主催する事もします。

このように仕事を通して宣教は生活の一部になっています。し

かしフィンランドに移ってから最初はヨーロッパから日本に宣教するのが当然の事と思ってたので、数年後にクリスチャンミュージシャンのベッカさんから「君は宣教師としてここに住んでいるのか？」と聞かれたときは何だか変な事を言うなと感じました。それが日本には未だにクリスチャンが人口の1%以下しか



いないと何度も耳にする内に私がする事もあるのではと思い始めました。

それから大分経った後、2018年の夏に行われたフィンランドの宣教団体FLM主催の大集会で西日本福音ルーテル教会がユースワークを推進するためにチームを立ち上げる事とそのためFLMは日本へ送る宣教師を探しているという話を聞きました。興味があることを担当者に告げると面接に呼ばれ、認められて宣教師クラスに参加しています。



Philippe Gueissaz氏の撮影

そして2020年の夏から日本に家族と共に派遣される予定になってます。そうなれば私は西日本福音ルーテル教会の中でユースのための活動を、そして妻は日本語クラスに通った後に仕事を始める事になります。私達の事もお祈りの中で覚えていただければ嬉しいです。

大いなる神様の小さな宣教‘紙’

Sister ソハラ

マリア福音姉妹会



キリスト者の集いでマリア福音姉妹会のブックテーブルを訪ねてくださった方は、ご覧になられたことがあるかもしれません。

小さな一片の紙切れですが、世界のあちこちで今日も、それを受け取る人々に

神様の愛を伝え、励まし、慰めを与え続けているブックマークをぜひこの紙面をお借りしてご紹介させていただきたい、と思いました。

最初はドイツ語だけで、何十年前も、私たちの創立者が町で出会ったたくさんの若い兵士たちに、神様の愛を伝えるため、何か良いアイデアがないか祈り求めた結果、与えられたいくつかの言葉が始まりだったのです。この小さな紙切れは、すでに98の言語に翻訳され、たとえば私たちが町へ用に出かける時、あるいは買い物に、その他の外出の際、いつもバッグに入れ、「小さなグリーティングをどうぞ!」と、出会う人々に手渡せるようにしています。

この小さな言葉を通して、ある夫婦は離婚寸前に和解し、ある人は自殺から救われ、ある人は深い試練の中で慰めと励ましを受けられました。口下手で何も言

えない人でも、祈りつつこの小さな言葉を、その人の国の言葉で渡す時、神様が自身がそれを用いてくださいます。町に行くと、本当にたくさんの外国人に出会いますが、自国の言葉で受ける小さな挨拶を多くの人は喜んで受け取ってくれます。

この小さな言葉を通して、その人が神様と出会うのなら、落胆している人が再び励まされ、勇気を与えられ、イエス様に信頼し始めるなら何とうれしいことでしょう。これを読まれる兄弟の中で、ぜひ私も、と心に語られた方はどうぞ SisterSohara S.Sohara@kanaan.org までご連絡ください。ご希望の言語のブックマークを郵送させていただきます。

マリア福音姉妹会のホームページ

www.kanaan.org





わたしのミッション、あなたのミッション

英国；ケンブリッジ

開かれた教会へ

シュミット亜弥子

ケルン・ボン日本語キリスト教会



2020年の教会目標は「ひらかれた教会」です。そこで、日本語教会がここケルンの地にある事を知ってもらうきっかけとして、3か月に一度映画会を、又 韓国人ご夫婦が会員として居られるので、これから ハングルの講座を設けようと私達は計画しています。

現在行われている集会は、「聖書の学びの会」・牧師宅で月2回。「家庭集会」としては会員宅で月に2、3箇所で行っていて、その地域に住んでいる日本人の方達が集まっています。

私の所であるケルン集会は月一度、渡辺和子氏の「面倒だから、しよう」をテキストとして使い、佐々木先生がそこに related 聖書の箇所を話してくださいます。クリスチャンは2人、他に5-6人。皆様集会を楽しみにして下さいますが、礼拝にまでつながるのは難しいです。しかし、私達が毎年行うバザーには皆さん全力を尽くして手伝って下さいます。

佐々木先生が来られてからはキリスト教に沿った「ママの子育ての学び」が牧師宅で行われています。近所に赤ちゃん又は日本語補習校に通っているお子さん

主の御名を讃美いたします。ケンブリッジに住んでもう40年以上になりますが、35年前にケンブリッジにあるイギリスの教会で洗礼を受けました。英語もまだ十分に話せない私を主は導き、イエス様の十字架が私のためであった事を教えて下さいました。ケンブリッジは世界的に有名な大学街ですが、優秀な人々が学問を習得する為に世界中からやってきます。日本からも大学関係者、仕事や研究で1-2年の短期で来られます。



野外礼拝

をお持ちの家族が住んでいるので、5-6人の方々が集まっています。そのメン

バーの方々が別の日に月に1回、牧師宅で行われている「読書会」にも参加して聖書を読んで御言葉の分ち合いをしています。

子ども礼拝も佐々木牧師が来られてから何年かぶりに始まり、クリスマス礼拝は ページェント礼拝をする事が出来ています。新しく教会に見える方は殆どホームページで礼拝を知って訪ねて来られます。

これからの時代はホームページは大切。私達のHPを毎週新しく作って下さるのは、日本に帰られた会員の方です。インターネットの時代で、どこに住んでも連絡が取れるのは幸いです。特に若い人達にはメディアを通じて呼びかけるのも重要なのだと思います。

教会という所が敷居が高くなく、誰でも来れる様になる事を私は望んでいます。

ホームページ：<http://koelnbonn.jp/>

諦めず、焦らず、喜んで
ゴスリングとみよ

ケンブリッジ日本語集会



主の御名を讃美いたします。

ケンブリッジに住んでもう40年以上になりますが、35年前にケンブリッジにあるイギリスの教会で洗礼を受けました。英語もまだ十分に話

せない私を主は導き、イエス様の十字架が私のためであった事を教えて下さいました。ケンブリッジは世界的に有名な大学街ですが、優秀な人々が学問を習得する為に世界中からやってきます。日本からも大学関係者、仕事や研究で1-2年の短期で来られます。

日本人の集会がある事を知り、毎週土曜日にある集会に通う様になりました。

メンバーは私の様にイギリスで主に出会い、救われた人々ばかりでした。まだ信仰の浅い私達のために牧師先生がロンドンや他の所からきて下さり、御言葉を教えて下さいました。長年導いて下さった牧師先生方に今でも感謝しています。

ある時息子の行く小学校に転校して来た日本人の子供のお母さんが「学校から送られて来た手紙の



内容を教えて下さい」と声をかけて来ました。話を聴くと、言葉の違い、文化の違いに適応出来ずに家族中で困っていると話してくれました。

この体験から仕事の合間に月2回私の家を解放して「お母さんと子供の会」を開く様になりました。お母さんと子供達が日本語で喋れる所、イギリスの情報を提供し、助け、更にお母さん同士が知り合える場を提供するのが目的でした。

まだインターネットもなく、情報もなかなか得られない、日本は地球の反対側、英語が出来ないと、外に行くのも大変という時代でした。しばらくするとケンブリッジJCFの姉妹も助けてくれる様になりました。



クリスチャンのグループが主催である事を明確にし、主によって救われた者として来られる方々に誠を

持って語り、主の下さる愛をもって奉仕する事を皆で同意しました。月日が経ち30年過ぎた今もこの会は続いています。私が仕事の為にこの会に出席出来ない時もあったのですが、主がいつも働き人を送って下さいました。昔は日本人家族が

わたしのミッション、あなたのミッション

スオミ・ロヴァニエミから

多かったのですが、最近では国際結婚の方も多くなりました。

数年前、主の用意して下さったこの会でイエス様の御言葉を語らないのはイエス様に申し訳ないと示されました。他のメンバーの同意をもらって毎回聖書の紙芝居をすることにしました。お母さんがどう反応するか顔を伺っていたら何も出来ません。主に全てを託して始めました。子供達も理解出来る紙芝居を使って、お母さん方にも主の御言葉を語ることの出来る唯一の機会です。声を変えたり、ゼスチャーも混ぜて話します。私の仕事は御言葉の種子を蒔くことです。焦らず、諦めず、与えられている仕事を主に喜んでいただける様に語って行くことだと思います。その後は主が導いて下さいます。



10人のお母さんと11人の子供達が集まる

ケンブリッジJCFの主催で毎年ケンブリッジに住む日本人を招待してクリスマス礼拝を行います。聖書の紙芝居を始めるようになってから、かなり多くのお母さんと子供の会のメンバーが家族で礼拝に参加する様になりました。子供達が幼稚園や小学校に行き、もう参加されない元のメンバーもクリスマス礼拝にきてくれます。全てを益として下さる主に感謝いたします。

実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリストイエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。エペソ人の手紙 2：10

宣教の鍵「インサイド・アウト」

加藤たくみ

OVMCフィンランド



私たちの教会の名前の One Visionとは、イエス様が弟子たちに託したビジョン、「あらゆる国の人々を弟子とみなさい！」という大宣教命令です。マタイ28:19

イエス様が、十字架にかかるまでの約三年の公生涯、最も集中した事は何でしょうか？勿論、罪びとに解放を与え御国が近づいたことを伝えた事でしたが、同時にこの福音を伝える弟子達を育成した事でした。漁師、取税人、活動家などバックグラウンドの異なる個性豊かな普通の人たちと共に暮らし、心から仕え愛し、教えさとし、生き方の模範を見せました。そして聖霊様を与え、福音宣教を彼らに委ねられました。



Jippii ロヴァニエミ練習風景

イエスの昇天後、弟子たちが、死をも恐れず、大胆で力強い神の御国の到来を伝える様子が、使徒の働きには描かれていますが、それを読んでいるとわくわくします。そこには、イエス様のいのちが溢れた人々の様子が描かれており、宣教に生きる事は、実はキリストの命が溢れる秘訣です。

そして、宣教にとって大切なことは、

- 1) 一人一人が神の声を聞けるよう整えられる。イザヤ59：2あるように神と私たちの仕切りとなるような、肉や魂に染み付いた罪や咎、苦い根をイエス様の十字架で取り除いて頂き、その愛で癒していただく。
- 2) 主のみ言葉に養われる。主が、語られる御言葉を自身の日常生活の全領域（関係、価値基準、金銭、世界観など）に適応し従い実践する。そして、主の御心、自身の召しを聞き、主への献身を深める。
- 3) 「二人から三人がともにいるところに私もいる」という、イエス中心の透明で親密な信頼できる関係の中で成長する。という3つの点です。



Jippii ロンドン宣教

これは、書くのは簡単ですが、受肉するのはとても時間がかかり、忍耐を必要とします。一見、全然外向きに見えませんが、「インサイド・アウト」の原則で、自身が整えられると、御霊の働く器として、主が用いて下さるというわけです。

現在、個々人が賜物を生かし、Jippii子供賛美宣教、メンターとしての魂のたてあげ、日本人留学生伝道、母と乳幼児支援など、神の家族の関係の中で、主の愛を受け御霊の働く器として少しづつ整えられ、この世に遣わされています。

是非、皆さんも私たちと共に、ご自身の弟子化「インサイド・アウト」宣教にチャレンジしませんか？キリストのいのちが、溢れだすと喜びがあふれ、人生の大冒険が始まります。終わりの時代、共にキリストの体として、主に聴き、従い、王の王であられるイエス様の栄光のあらわれを期待していきましょう！

わたしのミッション、あなたのミッション

ザ・ターニングが行われたクルージュ・セントラルパーク



ルーマニア・クルージュ&独・シュトゥットガルトから

置かれた所で仕えたい

川井佳代子

ルーマニア・トランシルバニア日本語集会



「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。」(1コリント2:4)

夏の第36回ヨーロッパキリスト者の集いは、私たちに宣教地であるクルージュ・ナポカで開催され、私はティーン&ユースにかかわらせていただきました。プログラムの中で、「ザ・ターニング」という伝道プランがあり、数人の地元の若者も加わり、2、3人ずつに分かれて公園に伝道に行きました。私はA君とMさんといっしょに3人で出かけて行きました。

それぞれが声をかけ次は私の番でしたが、主はなんと10人くらいの青年の中に導いてくださいました。(もし私一人だったらそんな勇氣はなかったと思います。)最後に私たちがマンガの伝道本「道を探して(英語版)」をあげたら、「自分は無神論者だ」と言った男の子が、「ばくもこれをあげるよ」と自分の指から黒い指輪を抜き取りくれました。よく見るとオオカミの顔が描いてありました。主が彼を導いてくださる事信じます。



喫茶 さくら

私たち夫婦は主に導かれ2010年から喫茶さくらを伝道の目的でスタートしました。神さまの恵みによって今年9月で9周年を迎えることができました。感謝します。私はさくらで

は働いていません。私の持ち場は家庭です。目立たない裏方です。しかし、そんな中でも主は導いてくださいます。一人一人との出会いは偶然ではありません。主が私にゆだねている魂です。

たとえ多くを語らなくても私の中におられるイエス様のいのちが輝いてくださったらと願います。イエス様は「私の愛の中にとどまりなさい。」(ヨハネ15:9)とおっしゃいました。

「もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです」(ヨハネ15:10)

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」(ヨハネ15:12)

私たちがイエス様の愛の中に生きていくとき、それが一番の伝道だと思います。簡単な事ではありませんが、主から愛を、知恵を、忍耐を、慰めをいただき主が私をおかれた所でこれからもお仕えしていきたいと思っています。

たが、不思議な出会いや友人の紹介により国際結婚をされた家族、日本人留学生、駐在員家族が毎回与えられて来ました。

特に、日本に住んでいる時には一度も聖書の話や聞くことが無かった方々が、ドイツの地で福音に触れる機会は主の大きい御計画だと確信しています。



今井家 スモールグループ

2017年11月からは浅野康牧師がStuttgart中心部で開拓伝道(BIBLE & WORSHIP STUTTART)を始められ、第一&第三日曜日の主日礼拝、祈禱会、聖書の学びを行っています。私達も心から感謝と喜びを持って礼拝に参加し、第二と第四日曜日は我家で集会を継続しています。

このように毎週日曜日に日本語で神様を賛美し礼拝する機会が与えられていることを心から神様に感謝します。私達はイエス様が期待されるクリスチャン像とはかけ離れた存在ではありますが、それでもイエス様はいつもあるがままの姿を受け入れて下さり、今置かれている場所で欠けた器のまま用いてくださることに神様の憐れみを感じずにはおられません。

新たな年も神様が私達に与えてくださった賜物、時間、物質を神様の前に差し出し、欧州に在住されておられる方々との主にある交わりを深め、互いに励ましあい、共にみ言葉に養われて、成長していきたいと願っております。

「イエスよ、わたしたちは、ひとつになりました。互いに仕えることで、ひとつになりました。」

兄弟がひとつになることはなんと楽しくうれしいか、それは主が命の祝福を命じられたから。」 アーメン
問い合わせ先 bible.worship.str@gmail.com

主の大きい計画

今井 朗・弥寿子

BIBLE & WORSHIP STUTTART



私は、民間企業の転勤で2006年4月からドイツ南部Stuttgartに家内と二人で住んでいます。

ドイツ転勤を機に、神戸の母教会(コイノニア福音教会)から祈って送り出され、異文化のドイツで日本人への福音宣教の使命が与えられました。

赴任後まもなく、家内はStuttgartで知り合った日本人婦人と平日にスモールグループを始めました。そして、当地では日曜日に日本語で礼拝する場所がなかったため、2009年から我家で家庭礼拝、スモールグループを開始しました。最初は、家内と二人だけの時もありまし

わたしのミッション、あなたのミッション



ノルウェイはスタヴァンゲルから

”あー安心した”

森よし

スタヴァンゲル日本語聖書集会



尊い主の御名を心から賛美致します。

今年の一月にスイス日本語福音キリスト教会のニュースレターの紙面をお借りして、私たちの集会のレポートを載せて頂きましたが、あれから間もなく1年

を迎えようとしています。

一月から集会場と集会名を変更し、集会を持って参りました。集会は月一度テキストを用い聖書の学び会を致しました。それぞれが聖書のみ言葉から頂いた恵みや感想を分かち合い、霊的に養って頂きました。夏には中心メンバーを天に送り寂しい思いを致しました。ここで亡くなられたE姉妹の御証をさせていただきます。

E姉妹は、昨年1月頃に大腸癌が見つかり治療を受け5月には快復したと喜んでいました。しかし6月にリンパと肺に転移しているのが見つかり、再治療になりました。在宅治療しつつも、5月の集会まで忠実に参加しておられました。体調が悪くともここに来ると元気が出るというつつ参加しておられました。

それが5月の集会の後、首に痛みを覚え入院し手術しましたが、首と、顎の近くに転移があり、更に肝臓、膀胱にも転移が見つかったということでした。取り敢えず首の痛みを取るための手術でしたがガンを取り除くのは無理で、其のまま入院治療になりました。抗がん剤治療も始めていましたが、痛み止めの治療が中心でした。私たちも度々見舞いしましたが、いつも神様に感謝していて、口癖の様に、神様がねー、神様がねーと言っておりました。

一度偶然、病室で主治医と担当の看護師が往診に来て状況を説明するに時に同席しましたが、全てを受け入れ、何の恨みもつぶやきもなく、ただ主治医と看護師に感謝している姉妹でした。賛美歌が欲しいというので、集会で使っている歌集を持っていった所、「神様感謝します」の歌が口をついて出てくる

れども最後まで歌詞がわからないとのことだったので。訪ねるたびに一緒に賛美しました。

ご家族にも同じ様で、感謝の言葉を忘れませんでした。彼女の最後には立ち会えませんでした。子供さんたちの話では、手を上にあげて、光が見えて、天使が見える、あー安心した！！が最後だったそうです。

ご家族が最後の「安心した」が日本語だったためにどういう意味かわからずに心配していました。安心したという意味だと知り涙していました。そして母親の信仰を改めて深く知り、信仰を持つことが平安を得ることなのだと改めて知ったと話してくれました。本当に感謝なことでした。

実は去年の6月に私自身も乳癌に罹り、彼女と同じ時期に抗がん剤治療を、同じ病院で受けていました。2度ほど同じ日の同じ時間帯に治療を受けていて、点滴の器具をつけたまま私の治療している部屋をニコニコしながら訪ねてくれたのは彼女の方でした。二人と一緒に頑張ろうねと励まし合ったことを忘れることができません。私たちにはお互いに慰めでした。

お陰様で私はすっかり回復し元気にしております。多くの方に祈っていただいていたことを、人伝に、あるいは直接教えて頂き、主にある皆様の愛を感じております。ありがとうございました。

病を通してイザヤ書53章の御言葉から励ましを頂きましたが、このクリスマスを迎える季節、イエス様の御降誕が私たちにとってどんなに慰めであったか、もう一度あの思いを思い起こしております。

集会は11月の最後の土曜日にクリスマス集会を、金子進兄弟をお迎えして持ちました。兄弟から多くの励ましを頂き、また楽しい交わり会を持つことができました。またいつか、学び会だけでなく礼拝を持てる日が来ることを願って、導きを祈っています。

祝福と恵みに満ちたクリスマスをお迎えください。イエス様の御降誕を心から感謝し、お祝い申し上げます。



オスローから金子兄を迎えて集会後の交わり



スタヴァンゲルの古い街並み

わたしのミッション、あなたのミッション

米国は加州・サンタモニカから

米国に福音を戻したい

中井美鈴

Calvary Chapel South Bay



クリスチャンになってからミSSIONナリーになりたいという思いが心にありました。医師だった父に「お父さんは体を治すお医者さん。私は心を癒すお医者さんになりたいの」と若さ故に偉そうに言ったことを思い出します。

宣教師と日本語で聞くとなんとなく伝道するだけといったイメージがありますが、ミSSIONナリーと言うと、もっと幅があるように感じるの私だけでしょうか。

主イエス・キリストの弟子達への復活後の命令は「全世界に出て行って、すべての人に福音を述べ伝えなさい。弟子としなさい」でした。あれから2000年経った今、その命令にどれだけ信じて従っているのでしょうか。この問いかけはいつも私の心にあります。福音は私だけのためではない、全世界の人々にも等しく与えられている。この事をよく知っていながら、他の人に伝える事を躊躇するのはどうしてでしょうか。恥ずかしいから、嫌がられるから、拒まれるのが嫌だから、友人を失うから云々、言い訳は次々と心に湧いてきませんか。最大の誤魔化しは、「それは 私に言われた言葉ではない。ミSSIONナリーのお仕事！」

クリスマスのシーズン 私達のミSSIONグループは サンタモニカという太平洋岸にある有名なプロムナードへ、ここ7年間ミSSIONに行きます。ここは世界中からの観光客で賑わうショッピング通りですから 海外に出ないで多くの外国人に会えます。クリスマスの人々への最高のギフトは高価な宝石でも 美味しいケーキでも無い、それは 主イエス・キリストの救いの贈り物と信じて疑いません。永遠の命です。この宝を多くの人々に分かち合いたくて、毎年若者中心で出かけに行きます。まさしく福音の種蒔きです。

私が大切にしているミSSIONは、

1. 迫害下にある教会への祈りとサポート
2. イスラエルとユダヤ人のための祈りとサポート。
3. ここ数年来、付け加えたものは、アメリカに純福音を取り戻す。



サンタモニカの海

ここ数年間アメリカの状況を見てきてイエス・キリストを信じる信仰が大きく揺さぶられていることに気がついています。若者たちがそうしたリズムの波に乗りかねないと言う所まで来ています。私はキリスト者の集いでもお話しした通り、共産主義の下での信仰が踏みにじられ、人権が無視されて、傷めつけられたその歴史から、国の政治の行方には関心があります。今は祈りが非常に大切な時です。国のために祈り、権力者達のために祈る。感謝なことに私たちの教会は、休むことなく人々に主イエスの福音を伝え御言を語り続けることをしていると言っても過言ではありません。入り口に入ると大きなアーチに「大いなるかな神の真実」とあり礼拝室から出る時に見るそのアーチの後には「今からあなたは宣教地に入ります」の文字が目に入ります。



アメリカに聖書の語る福音を戻したいという思いになって来たのは、パール・バックの著書「母の肖像」をずっと以前に読んだことからです。彼女の両親は 中国の地での宣教師でした。大変な時期で、それをパール・バック女史が細かく書き残しています。彼女のご母堂は、1945年頃 祖国アメリカに一時帰国された時「アメリカは門戸を広げ過ぎてキリストの精神が失われている。出来ることなら祖国に帰って宣教したい」と当時の祖国の霊的状态を嘆いています。

それと共に 私は 誰かを通して救いに導かれたのだと言う感謝の気持ちからです。日本には 世界で一番長かったと言われるキリシタンの迫害の歴史があります。その後も、ヨーロッパまたアメリカから神の召命に呼ばれて宣教師達が来て下さいました。今の様な便利で綺麗な日本にではなく、彼らの祖国の快適さと比較すれば雲泥の差があった時代に、福音を伝えたいとその熱情で来てくださった。私もその方々のお陰でこの様に救いに与った訳です。アメリカに遣わされた宣教師という思いで今はいます。

先週日曜日、この教会で初めての日本文化と食そしてミSSIONを紹介する大変大きなイベントを開催致しました。午前午後にかけて、3回の日曜礼拝のある教会です。礼拝前後、3回に焦点を当てて 大体一回75人分の食を用意するという事でした。日本人は3人いて、息子夫婦にもベビーを連れて来て貰って手伝いを頼み、サモア、韓国、メキシコから1人づつの奉



仕者が与えられました。簡単な和食をと思い、焼きそば、白米(50カップ炊きましたが足りず、最後は超ミニミニオニギリ)、チキン照り焼き、三笠焼き(出来た物)、あられと飴(可愛く袋に入れる)、緑茶を用意。飾りつけは其々家にあるものを出し、

日本の信仰を紹介し クリスマスは未だ1%以下であることも伝え、祈りを要請。訪問者は日本に興味があり好きです。皆、主にあって一致して、休む暇なく働きました。写真も終わってからやっと数枚撮ったきりです。ヘトヘトに疲れましたが皆、大きな達成感と喜びがありました。

この地には、未だ聖書を読む自由、福音を語る自由、教会に集う自由が残っています。しかし100%ではなくなって来ています。少しずつ門は狭くなって来ているのが解ります。今は悪い時代です。光の天使が神の子供たちを騙そうと休むことなく忙しく働き回っている時です。今こそ神に会う備えをして参りましょう。主にあって一つの体として共に「この道」を走りぬきましょう。神は、ご自分の御名の故に必ず助けて下さいます。



「わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。」

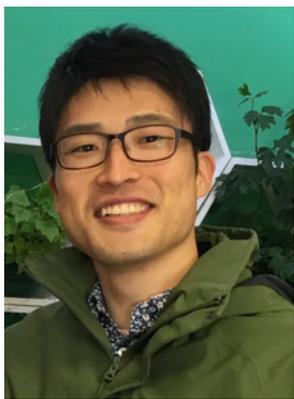
ヨハネの黙示録 3:8

祝福をお祈りいたします。

わたしのミッション、あなたのミッション

ニュージーランドはクライストチャーチから

恵みによって前進 矢部晶宏+ファミリー OM宣教師



ニュージーランドでの半年間の宣教師訓練も残すところあと少しになりました。12月20日に日本へ帰国し、オーストリアでのイスラム移民・難民宣教に向かう最終準備をします。

私たち夫婦は現在、宣教師の大先輩でありクライストチャーチ日本人教会の

牧師である渋沢夫妻の家に宿泊しながら実地訓練を通して、主から多くを学んでいます。

息子の理央は現地のクリスチャン小学校に入学して英語の環境で学ぶことができたり、10ヶ月になる理歩もすくすく成長し、すべての恵みを神さまに感謝しています。

ここでのすべての経験が今後の宣教師生活の大きな糧になると信じ、神さまと渋沢夫妻に感謝しています。

僕は「努力なしに事は起こらない」と長年必死に頑張ってきましたが、その結果、昨年7月のバーンアウトしてしまいました。恵みで始まった信仰生活なのに、救われた後はいつの間にか努力

(肉の力)に頼っていました。その過ちに気づいた時、心に響いたのはパウロのことばガラテヤ2:20:「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

信仰生活は、恵みで始まり恵みで終わる。自らの無力さを認め、私たちを用いて御業を成して下さるイエスさまに日々信頼して歩む。一番大切なことは「神さまとの愛の関係」であることをニュージーランドで学んでいます。



パイブルスタディ中に妻が倒れ救急車を呼ぶかという事態になったり(その後体調が安定しました)、子どもが体調崩して病院に何度も通ったり、僕も喉が腫れ夜中に救急病院行ったりと、ハプニングが続く日もありますが、支援者の方々の尊い祈りやサポートによって、訓練や奉仕ができてることが本当に神業だと思っています。

オーストリアへの到着は、ビザ手続きや現地受入先の都合で、予定していた来年3月から6月に延期になってしまいましたが、渡欧したらできるだけ早くJEGに伺い、皆さんと再会したいと今からとても楽しみにしています。

In Jesus verbunden,

ホームページによるこそ! <https://www.yyministry.com/>

わたしのミッション、あなたのミッション



イスラエルはエルサレムから

エルサレムを訪れるノンクリスチャン

川端寛海(ひろみ)・真亜沙(まあさ)

エルサレム日本語集会



イスラエルに住んでいることの特権の一つは、日本人のノンクリスチャンと自然に聖書の話ができることです。

エルサレムに観光で訪れる日本人は少なくありません。最近は新聞社や

教授との繋がりが与えられ、それをきっかけに個人観光客を紹介され、エルサレムを案内する機会も与えられています。特に仮庵の祭りのある今のハイシーズンなどは、現地ガイドの通訳やガイド補助もさせてもらっています。

クリスチャンホーム育ちの私が驚かされるのは、意外と聖書に興味を持っている日本人が多いことです。時には、一般観光客の聖書に対する食いつきはクリスチャンの観光客以上だと感じることもさえます。特に、私がクリスチャンで聖書を研究する大学院生だと知ると進んで質問をし、聖書の話を生懸命聞いてくれる人も多いです。



墳墓教会に着くと涙を流された方もいました。

特に「ピアドローサを歩いてみたくてエルサレムに来た」という観光客の多さにびっくりします。聖書を全く読んだことがなく、イエス様を「名前がイエス、名字がキリスト」と思っているような方々でも、話してみると死海での浮遊体験や、ペトラ遺跡を見ることよりも聖墳墓教会を楽しみに来たと言われます。中にはピアドローサで鞭打たれ十字架を背負う当時のキリストを真剣に想像しながら歩き、聖

私たちは、時には旧市街で偶然会った日本人に話しかけて連れまわすこともあります。どのような人であれ、ピアドローサの終点で必ず語るのは「キリストは死から蘇った。その目撃者であった弟子たちは、命がけて証言し、実際にほとんどがそのために殉教した。冗談や嘘のためには死ねない。彼らが命を張ったから多くの人たちが信じた。この場所で起きた出来事が世界中に広まり、キリスト教は広まった。」ということ。エルサレム観光をきっかけに聖書を読みたくなったと言ってくれる人もいます。



私は幼い頃から、周りの日本人は神様に全く興味がないのだと思っていましたし、福音をあざ笑うような者に福音を伝えることはまさに「豚に真珠を投げる」ことだと思っていました。しかし初めてセキュラーの知人を案内した時は、エルサレムについて歴史や表面的な概要を説明し逆に「もっとキリストの話をしてください」と言われました。日本人は案外宗教的であり、宗教に関心があり、何より福音の力は万人に伝わるものであるということを学ばされ、先入観を捨てなければと反省させられています。

エルサレムにある我が家は、沢山の人の交流の場となっています。教団や教派、異なった宗教の枠を超えて、また、ノンクリスチャンの方達との交流も始まりました。日本のお隣の韓国や中国のかたたちとの交わりもあります。ここで出会い、繋がっていく人達に、主の助けと導き、祝福があるように、また小さなこれらの出会いが主に用いられるように、祈りつつ歩む日々です。



わたしのミッション、あなたのミッション

北海道・十勝平野

東京&帯広から

2020年は熱い年に

ローゼンクランツ

クリスチャン&直美

ジーザスコール東京チャーチ



すばらしい主の御名を賛美いたします！
いつも私たちのことを祈りに覚えてくださるお一人お一人に心から感謝します。

この2019年は私たちにとってもある意味、激動の年でした。3つ目の教会開拓として4月に福岡から東京に引っ越し、7月に無事チャーチオープニングをすることができました。また夏にはスイスから短期宣教チームを迎え、また山梨で第1回のサマーキャンプで最初の洗礼式がもたれたことも感謝です。

とは言っても、振り返ってみると今に至るまでまだまだ準備段階、始まりの始まりだと感じて



山梨・富士山麓サマーキャンプ

ています。この間守られ、忠実な神様がただ共にいてくださったということだけでも感謝でいっぱいになるような、そんなチャレンジと恵み満載の年でした。2020年、東京ではオリンピックが開催され、熱い年になりそうですが、私たちも主の日本の人々に対する熱い思いを受け取って進んでいきたいと思ひます。

長男の志音も高校生としてすっかりシティライフ(?)に慣れ、エンジョイしています。安奈は高校受験にむけて頑張り中。二人とも忙しい中でも神の国を第一として、機会あるたびに友達を誘ったりしている姿に神様の恵みを感じつつ、東京の地でもよい信仰の友たちがこれから与えられていくことを期待しています。

来年3月後半には家族全員でスイスに2週間滞在する予定です。その時に皆様にお会いできますことを心から楽しみにしています。感謝をこめて

十勝宣教報告

フーサー・シモン&香織

帯広栄光キリスト教会



こんにちは！いつも私たちのことを覚えてお祈り下さりありがとうございます。私たちは昨年4月から北海道の帯広栄光キリスト教会にて奉仕をさせていただいております。十勝の地に来て早くも2回目の冬を迎えましたが、やはり寒い！笑。12月初旬でも既に日中もマイナス気温の日々が続いています。

ですが「十勝晴れ」という言葉があるように、そんな寒空の下でも空気が澄み渡って雪がうっすらと積もった十勝平野の壮大な景色を見ると心が晴れ晴れとします。そしてこの美しい自然を見るたびに神様の創造の豊かさに思いを馳せま

す。栄光教会では私たちは礼拝説教(シモン)、CSスタッフ、英会話、子育てママの集まり(香織)、月2回のカフェな

どで奉仕をさせていただいています。また、隣町の音更(おとふけ)町にある伝道所・ぼっかぼかハウスでは、月に1度小学生向けの子ども会・ぼっかキッズ、月2回社会福祉協議会の後援を得て地域交流サロン・ぼちゃっこを赴任してから始めました。

この地域に根差し、まだ主を知らない方に如何に福音・神様に会ってもらえるか。そんなチャレンジに向き合う日々です。



ぼっかキッズ

どんな子どもが、何人来るか全くわからず始めたぼっかキッズ。前日に小学校の前でチラシを配る際から彼らとの関係作りが始まっています。感謝なことに毎月行って行く中で「あ！ぼっかキッズだ！」と、私たちのことを覚えてくれる子どもが大勢できました。

そして今年に入ってから毎回地域の子どもが10~20人程度集まりアクティビティーやメッセージを通して福音を聞いています。レギュラーメンバーとなり、次回を楽しみにしてくれる子もいます。ハレルヤ！ぼちゃっこでは私たちと同世代の社協の方と友達となり、お互いの家を行き来する関係になりました。

次なるステップとして彼らをクリスマス礼拝に誘いたいと祈っています。こうして皆さんの祈りと励ましと受け、皆さんの思いと共に十勝宣教が行えることを感謝します。是非、続けてお祈りください！



わたしのミッション、あなたのミッション

東京 & 大阪から

チームでなされる福音宣教を

永井敏夫

在欧日本人宣教会運営委員会



福音宣教はチームでなされている。在欧日本人宣教会（以下、「在欧」）には現在100余名の会員の方々が祈り手として歩んで

おられる。その中から運営委員が立てられ、企画立案と運営、機関誌の発行発送などを行っている。

団体として安藤先生ファミリーを派遣し、「イザール友の会」と協力しながら、祈り、支援を続けている。また「ヨーロッパ宣教祈禱会」や「在欧クリスマス会」等の機会に人々が交わり、祈り合う姿を見ることは、私たちの喜びだ。また「ブルーベルの会」が今日まで継続され、様々な方々が主と共に憩う場になっている。私たちはこのような「時間と空間」をこれからも提供していきたい。

2019年秋から会員を対象に「祈りのメール」を配信し始めた。「在欧」に届けられる欧州各地からの祈りの課題を小分けし、それを元に毎週配信している。欧州の日本語宣教が進んでいくことを願う方々の祈りが日本各地で積まれていく中で、主は何を見せくださるだろうか？

「聖書を読む会」の協力を得ながら聖書研究を促したり、「見つけた！子育ての喜び」を用いての子育てセミナーも企画、開催するようになった。欧州にいる日本語を解する人々の声や思いに耳を傾けながら、小さく細くこのような活動が継続し、広がっていくことを願っている。

現在、7割を超える会員が関東圏にいるが、東海や九州から総会に出てきてくださる方々もおられる。宣教のために

祈って献金する方々、諸企画に参加し、受付や賛美、演奏、証などの奉仕をする会員方の存在は大変大きい。欧州の各地から「日本に帰国する方々いるので教会を紹介してください。」という声も在欧に届いてくる。会員の方々が更に増え層が厚くなり広がっていくと、より様々なサポートができるだろう。



欧州の日本語教会／集会を覚えての祈り会

欧州で活動している牧師方を日本から支援している団体、支援会、教会との繋がり（現在10余り）もでき始めた。国内でのこのような繋がりが継続していくことを願っている。

宣教のわざは神をリーダーにチームでなされていく。チームにはフィールドプレーする選手、スタンドで応援するサポーター、またフィールドに顔をみせることなくさまざまなことをする人々がいる。神のみにスポットライトが当たるよう、ひとりひとりが喜びをもって動いていく中で、主のわざが進んでいくのだと私は思う。

目を覚まして祈っていないさい

工藤篤子

工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ



スイスでのコンサートの2か月後の5月に、35年の欧州生活に終止符を打ち、本帰国、その後、これまでの一年半の間、大阪の家、事務局、札幌の実家の新築に伴う仮住まいと新居への移動と、国内で4回、帰国を含める

と、5回の引越しをいたしました。その間、父の2度に亘る腰椎圧迫骨折、妹と父の受洗と、嵐の中に主の光が貫く、激動と感謝の日々を過ごしてまいりました。しかし、そのような激動の中で祈る時間が薄れ、自分の霊性が如実に下がって行く危機感を感じました。そこで、生活の方向転換を決意、揺れ動く時の中で、揺れ動かないお方から力をいただくために、日々の主への礼拝の時間のほかに、一日一時間の祈りを開始、断食祈禱、また時々の徹夜祈禱にも導かれるようになって一年が経ちました。

断食は前から続けてきましたが、徹夜で祈るなど、ドイツにいた頃は考えてもみませんでした。自分にはどうも出来ないことだと思っていたからです。けれども、終わりの時が近づくのを肌で感じるようになり、暗闇の力に打ち勝ち、主のみわざを行わせていただくには、自分の肉と戦いながら、目をさまして祈ることが大切なのだと思わされるようになりました。



月に一度か二度、それもまだ たったの一年ぐらいしか経っていませんが、イエス様が、弟子たちに、「一時間でも、わたしと一緒に目をさましていることができなかったのか。誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていないさい。心は燃えていても、霊は弱いのです」とおっしゃった意味が、少しずつ理解できるようになってきました。夜、暗闇の中で目をさまして祈ることから、誘惑に勝つ力が与えられ、内なる霊が強められて来たことを感じます。

工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズの働きも、祈りを通してみことばと明確な導き与えられ、今までより一歩進んだ働きへと導かれているように思います。また、賛美も、もっと感謝と喜びに溢れてきたことを感じます。来年は、日本だけでなく、オーストラリア、北米、ブラジル宣教も予定しています。どうぞお祈りください。